

令和6年度事業報告

社会福祉法人センチュリー岡山

社会福祉法人センチュリー岡山は、「社会、地域における福祉の充実・発展」に寄与することを使命とし、誰もが安心して老後を迎えることができる地域社会を目指して平成11年4月に特別養護老人ホーム阿知の里等の事業を開始し、その翌年の平成12年に介護保険制度が誕生し26年が経過しました。その間、介護保険制度は軌道修正や調整を繰り返しながら次第に成熟してきた。その背後で①総人口の減少と高齢者割合の増加、②高齢者の急増から「現役世代の急減」に状況が変化し、令和5年度には初めて介護職員数は減少し、人材不足が深刻化してまいりました。③利用者の増加と保険料の上昇が課題として生まれています。こうした中、当法人が経営する阿知の里、福治の里、楽々園の3拠点施設の連携で介護や社会的支援の必要な人が、その能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように、人権の尊重、サービスの質の向上、地域との関係の継続、生活環境・利用環境の向上に努めてまいりました。また、令和5年5月1日付けで養護老人ホーム楽々園に併設してケアハウス楽々園を開始しています。

次に、コロナ感染症発生（2019年）から6年、5類に移行（2023年）してからも流行の波があり、全国で感染者は発生しています。当法人の事業所において、引き続き、面会制限、入場者の検温などご協力をいただきながら入所・入居者、利用者、職員の体調管理と感染防止対策に努めてまいりました。

経営においては、主力事業の特別養護老人ホームにおいて、この5年間で利用率、待機者の低下が見られる中、稼働率が94.4%(95%)で黒字は確保しました。しかし、ショートステイ、訪問、デイサービス事業等は依然大幅な赤字運営でありました。今年度、特養とグループホームの余裕資金を投資に回し、受取利息配当金収益12,706千円、コロナ補助金（介護サービス提供体制確保事業）12,075千円及び雇用関係助成金7,040千円があったことから、結果的には、法人全体の経常増減差額は対前年比で40,878千円の増（前年度13,049千円の増）となりました。

○法人としての地域福祉戦略

高齢者福祉ニーズに対応した心の通ったきめ細かなケアを行い、施設福祉はもとより地域住民（世帯）が抱える多様で複合的な地域生活課題に社会福祉法人として取り組むため、関係機関等と連携しながら活動を行った。

- ①地域からの依頼による困難な課題を抱える在宅高齢者等への相談支援
- ②地域住民等から施設へ寄せられた相談（入所を含む）の連絡
- ③デイサービスセンター阿知の里、訪問介護事業所阿知の里、特別養護老人ホーム阿知の里短期入所生活介護、養護老人ホーム楽々園、デイサービスセンター楽々園、ケアハウス楽々園特定施設の空室状況や利用状況について、営業活動を行うとともに、居宅介護事業所のケアマネとの連携を図りました。

法人単位事業活動計算書

令和06年度

社会福祉法人センチュリー岡山

(自)令和06年 4月 1日 (至)令和07年 3月31日

(単位: 円)

勘 定 科 目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
【サービス活動増減の部】			
収益			
介護保険事業収益	564,848,219	556,796,791	8,051,428
老人福祉事業収益	159,733,129	156,721,507	3,011,622
福祉有償運送事業収益	1,205,230	800,570	404,660
その他の事業収益	22,779,825	12,515,400	10,264,425
経常経費寄附金収益		80,000	△80,000
サービス活動収益計(1)	748,566,403	726,914,268	21,652,135
費用			
人件費	425,882,410	423,864,436	2,017,974
事業費	105,062,807	109,902,340	△4,839,533
事務費	35,474,966	45,056,779	△9,581,813
減価償却費	74,352,444	76,036,635	△1,684,191
国庫補助金等特別積立金取崩額	△26,115,414	△32,521,184	6,405,770
サービス活動費用計(2)	614,657,213	622,339,006	△7,681,793
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	133,909,190	104,575,262	29,333,928
【サービス活動外増減の部】			
収益			
受取利息配当金収益	12,706,826	410,637	12,296,189
有価証券売却益	9,449,665		9,449,665
その他のサービス活動外収益	1,760,142	2,005,498	△245,356
サービス活動外収益計(4)	23,916,633	2,416,135	21,500,498
費用			
支払利息	4,382,960	4,664,120	△281,160
投資有価証券売却損	10,339,139		10,339,139
その他のサービス活動外費用	822,880	924,599	△101,719
サービス活動外費用計(5)	15,544,979	5,588,719	9,956,260
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	8,371,654	△3,172,584	11,544,238
経常増減差額(7)=(3)+(6)	142,280,844	101,402,678	40,878,166
【特別増減の部】			
収益			
施設整備等補助金収益	10,764,000		10,764,000
特別収益計(8)	10,764,000		10,764,000
費用			
固定資産売却損・処分損	2	4	△2
国庫補助金等特別積立金積立額	12,062,000		12,062,000
特別費用計(9)	12,062,002	4	12,061,998
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△1,298,002	△4	△1,297,998
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	140,982,842	101,402,674	39,580,168
【繰越活動増減差額の部】			
前期繰越活動増減差額(12)	988,125,400	886,723,026	101,402,374
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,129,108,242	988,125,700	140,982,542
その他の積立金積立額(16)	300	300	
次期繰越活動増減差額(17)=13+14+15-16	1,129,107,942	988,125,400	140,982,542